

「農業戦略アクションプログラム part II」(H27～29)の策定について

<趣旨>

長期総合計画の目標達成に向けて策定した、農地、担い手、生産に関する具体的な行動計画が、平成26年度末で終了することから、5年間の実績を踏まえ、取組内容を見直しました。

農業緊急戦略アクションプログラム(H22-26)

○ 数値目標達成状況

担い手の所得は5年前に比べ増加、産出額は横ばい、耕地面積と農家戸数は減少

達成	樹園地整備、うめ新商品開発、農薬残留ダブルチェック
概ね達成	業務用野菜産地化、みかんオリジナル品種導入
やや困難	農業法人化、新たな加工品づくり、新規就農者育成、かき・もも産地若返り、花きオリジナル品種導入
未達成	鳥獣被害防止、認定農業者育成、担い手の規模拡大、熊野牛生産拡大

注) 数値目標達成率で分類 達成 75%以上 概ね達成 50～74% やや困難 25～49% 未達成 24%以下

○ 課題

働きやすい農地づくりと有効活用
多様な担い手の育成確保
競争力のある農産物・加工食品づくり
攻めの販売促進

農業戦略アクションプログラム part II (H27-29)

○ 施策展開 農産物の生産性や付加価値の向上、国内外への販路開拓を一層推進

	15の旧プロジェクト	11の新プロジェクト	主な取組
農地対策	担い手への農地集積	担い手への農地集積 (和歌山版農地流動化対策)	農地流動化の推進 水利環境の整備
	優良農地活用のための施設整備促進	優良農地活用と施設整備促進	
担い手対策	樹園地整備加速化	樹園地整備加速化	農地流動化による規模拡大 青年就農給付金の活用推進
	法人化推進	農業法人等の組織経営体育成支援	
生産対策	中核農家育成強化	新規就農者の育成支援	6次産業化の推進 新品種の開発 施設園芸の推進 果樹個性化商品の生産拡大 みかんの厳選出荷促進 本格梅酒のPR 熊野牛の新たな生産方法の検討 捕獲を中心とした鳥獣害対策
	新たな担い手確保	食品産業と連携した新たな加工食品づくり	
	食品産業と連携した新たな加工品づくり	野菜・花きの産地拡大	
	業務用野菜の産地化	果樹産地の競争力強化	
	花きオリジナル品種の生産拡大	熊野牛生産拡大	
	温州みかんオリジナル品種のシリーズ出荷推進	鳥獣被害防止強化	
販売対策	紀州うめの新需要創造	安全安心農産物の生産拡大	国内外でのプロモーション活動の実施
	かき・ももの産地若返り		
	熊野牛生産拡大		
	鳥獣被害防止強化		
	安全安心農産物の生産拡大		
	(農水産物・加工食品の販売促進戦略)	(農水産物・加工食品の販売促進戦略)	

前回プログラムの数値目標達成状況

	目標 (H26)	実績	
共通 目標	担い手農家の年間農業所得 農業産出額	407万円 (H19) → 550万円 1,026億円 (H19) → 1,500億円	482万円 (H25) 993億円 (H25)
	耕地面積	36,000ha (H20) → 35,000ha (趨勢34,000ha)	34,200ha (H26)
	農家戸数	36,531戸 (H17) → 32,000戸 (趨勢31,000戸)	33,799戸 (H22)

評価：数値目標達成率

A 75%以上 B 50～74% C 25～49% D 24%以下

対策	プロジェクト及び目標 (H26)	実績	評価	今後の主な取組 ★印は実績に対する要因
緊急 対策	① 法人化推進 農業法人数 40法人 (H20) → 100法人	66法人 (H26)	C	★経営の規模拡大と多角化が課題 農地流動化による規模拡大 6次産業化の推進
	② 樹園地整備加速化 果樹園の基盤整備率 37.8% (H18) → 40%	39.8% (H25)	A	ほ場整備等の計画的推進 園内道整備の推進
	③ 業務用野菜の産地化 業務用野菜の作付面積 0ha (H21) → 60ha	37.3ha (H26)	B	低コスト化の推進 販売促進
	④ 食品産業と連携した新たな加工品づくり 食料品製造業の製造品出荷額 1,386億円 (H20) → 1,600億円	1,489億円 (H25)	C	★梅干しの不振による伸び悩み 食品メーカーとの連携推進 6次産業化の推進 販売促進
	⑤ 鳥獣被害防止強化 鳥獣による農作物被害額 3.3億円 (H20) → 2.5億円	3.3億円 (H25)	D	★生息数の増加、範囲の拡大 捕獲を中心にした総合対策 新たな捕獲技術の実証

対策	プロジェクト及び目標 (H26)	実績	評価	今後の主な取組 ★印は実績に対する要因
重点 対策	① 中核農家育成強化 認定農業者数 3,613経営体(H20) → 4,500経営体	3,156経営体(H26)	D	★認定農業者の高齢化等 農地流動化による経営基盤強化
	② 新たな担い手確保 新規就農者数 147人/年(H20) → 200人/年	166人/H21~25 平均	C	★課題は農地確保等 農地流動化による農地確保 青年就農給付金の活用推進
	③ 担い手への農地集積 ④ 優良農地活用のための施設整備促進 認定農業者等の経営面積 1.6ha/戸(H20) → 2.2ha/戸	1.7ha/戸(H25)	D	★課題は農地の流動化 農地流動化の推進 水利環境の整備【27新規】
	⑤ 温州みかんオリジナル品種のシーズ出荷推進 オリジナル品種の栽培面積 292ha(H20) → 550ha	438ha(H25)	B	個性化商品の生産拡大【27新規】 みかんの厳選出荷促進【27新規】 新品種の開発 販売促進
	⑥ 紀州うめの新需要創造 新商品開発数 5商品 (県が商品開発に関与)	13商品(H26)	A	個性化商品の生産拡大【27新規】 本格梅酒のPR 新品種の開発 販売促進
	⑦ かき・ももの産地若返り 未成園率 かき 8%(H20) → 10% もも 7%(H20) → 10%	かき 7%(H25) もも 10%(H25)	C	★課題は有望品種の育成等 個性化商品の生産拡大【27新規】 新品種の開発 販売促進
	⑧ 花きオリジナル品種の生産拡大 オリジナル品種の栽培面積 3ha(H21) → 20ha	10.5ha(H25)	C	★栽培技術普及等 施設園芸の推進 新品種の開発 販売促進
	⑨ 熊野牛生産拡大 飼養頭数 2,900頭(H20) → 3,500頭	2,430頭(H25)	D	★飼料価格の高騰など 熊野牛の新たな生産方法の検討【27新規】 販売促進
	⑩ 安全安心農産物の生産拡大 出荷前段階での農薬残留検査 470件/年(H21) → 500件/年	640件/年(H25)	A	農薬残留のダブルチェックを推進

農業戦略アクションプログラム part II

共通目標	担い手農家の年間農業所得(万円) 407(H19) → 482(H25) → 550(H29) 農業産出額(億円) 1,026(H19) → 993(H25) → 1,500(H29)
	耕地面積(ha) 36,000(H20) → 34,200(H26) → 34,000(H29) (趨勢33,000)
	農家戸数(戸) 36,531(H17) → 33,799(H22) → 32,000(H29) (趨勢31,000)

対策	プロジェクト及び目標(H29)	主な取組項目	主な指標
農地対策	① 担い手への農地集積(和歌山版農地流動化対策)プロジェクト 認定農業者等の経営面積(ha/戸) 1.6(H20) → 1.7(H25) → 2.2	農地活用協議会の活動推進	農地流動化面積 300ha
		重点地区活動の推進	8地区
		経営規模の拡大と認定農業者等の育成	認定農業者 新規認定100件/年
	② 優良農地活用と施設整備促進プロジェクト 認定農業者等の経営面積(ha/戸) 1.6(H20) → 1.7(H25) → 2.2	耕作放棄発生防止のための農地貸借の推進	樹園地流動化面積 225ha
		農業水利施設の長寿命化の推進	機能診断 485km→603km 保全対策 7km
		農業水利施設の機能向上及び確保	150ha
③ 樹園地整備加速化プロジェクト 果樹園の基盤整備率(%) 37.8(H18) → 39.8(H25) → 41	中山間地域における樹園地の基盤整備の推進	ほ場及び農道整備 45ha(実施中) 24ha(新規)	
	省力化が可能な園地改良の推進	低コスト優良園地 1,323ha → 1,500ha	
担い手対策	④ 農業法人等の組織経営体育成支援プロジェクト 農業法人数(法人) 40(H20) → 66(H26) → 100	JAの農業経営参画を推進	4JA → 8JA
		農作業受託組織の育成	4組織 → 20組織
		法人化へのステップアップ支援	常時雇用時の研修費用支援 20戸/年
	⑤ 新規就農者の育成支援プロジェクト 新規就農者数(人/年) 147(H20) → 166(H21~25平均) → 200	就農相談・研修支援	就農相談会 10回/年 青年就農給付金 20名/年
		就農初期の経営安定化支援	青年就農給付金 50名/年
		サポート体制の充実強化	新規就農者への農地貸付け 30件
生産対策	⑥ 食品産業と連携した新たな加工食品づくりプロジェクト 食料品製造業の製造品出荷額(億円) 1,386(H20) → 1,489(H25) → 1,600	大手食品・飲料メーカーとの連携による商品開発の推進	3社/年
		県産食材を活かした中間加工食品の開発と販路開拓の推進	取組事例 1品目以上
		農業者を核にした加工食品開発の推進	6次化総合認定 10件/年

対策	プロジェクト及び目標(H29)	主な取組項目	主な指標
生産対策	⑦ 野菜・花きの産地拡大プロジェクト 野菜花きの栽培面積 100ha増	施設園芸の推進	施設高度化 15ha 高品質化設備 10ha/年 省エネ設備 176ha
		オリジナル品種育成と産地化推進	品種育成 3品目 栽培面積(スターチス、イチゴ、えんどう) 53ha → 65ha
		露地栽培の省力化推進	省力化機械等導入 3地区/年
	⑧ 果樹産地の競争力強化プロジェクト ～温州みかんオリジナル品種のシリーズ出荷推進～ みかんオリジナル品種の栽培面積(ha) 292(H20) → 438(H25) → 580	オリジナル品種の産地拡大	YN26・ゆら早生 258ha→300ha 田口早生 180ha→250ha きゅうき 0ha→30ha
		個性化商品の生産拡大と販売促進	完熟みかん等出荷量 3,417トﾝ → 5,000トﾝ/年
		厳選出荷の推進	加工仕向量 3,800t/年
	～うめ産地再編～ 白干し梅の生産量(万タル) 276(H26) → 230	多様な品種の導入	機能性品種(露茜、翠香、橙高) 9ha→50ha 「NK14」 90ha→200ha
		うめの需要拡大	梅干し機能性 3知見 うめ新商品 3商品 消費宣伝・販路開拓支援 3回/年
		複合経営の推進	新規複合経営農家数 50戸
	～かき・ももの産地若返り～ 未成園率(%) かき 8(H20) → 7(H25) → 14 もも 7(H20) → 10(H25) → 19	新品種の育成	甘かき 1品種 もも 1品種
		園地の若返り推進	未成園率 かき 7%→14% もも 10%→19%
		かき・ももの出荷平準化の推進	10月上旬～中旬のかき出荷量 シェア 45% → 40%以下 もも優良品種導入 0ha → 10ha
	⑨ 熊野牛生産拡大プロジェクト 飼養頭数(頭) 2,900(H20) → 2,430(H25) → 3,200	新しい熊野牛ブランドの構築に向けた独自性の高い肥育技術の検討	新技術の開発
		高能力繁殖雌牛の増頭促進	増頭支援 15頭/年
		体外受精卵を活用した優良子牛の生産を推進	受精卵供給 50個/年
	⑩ 鳥獣被害防止強化プロジェクト 鳥獣による農作物被害額(億円) 3.3(H20) → 3.3(H25) → 2.5	捕獲・人材育成の推進	有害捕獲支援 20,000頭/年 シカ管理捕獲 1,500頭/年 サル管理捕獲 600頭/年 ICT捕獲わな導入 10基
		防護・環境整備の推進	防護柵設置支援 20市町/年
		ジビエの利用促進	取扱店舗 106 → 120 処理施設 17 → 20 ジビエ認定施設数 5 → 6
	⑪ 安全安心農産物の生産拡大プロジェクト 出荷前段階での農薬残留検査(件/年) 470(H21) → 640(H25) → 640	出荷前段階での農薬残留検査の推進	農薬残留検査支援 640件/年
		GAPの導入促進	研修会 2回/年
エコファーマーの育成		新規認定数 30名/年 研修会 5回/年	